

## トビウオ通信 (H20 第 9 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

### 《平成 20 年度第 2 回日本海スルメイカ漁況予報》

当技術センターをはじめとして北海道から長崎県までの水産研究機関と独立行政法人水産総合研究センターが協議し、日本海区水産研究所がとりまとめた第 2 回日本海スルメイカ長期漁海況予報（平成 20 年 7 月 18 日付け）が発表されました。今回はその内容を基に、今後のスルメイカの漁況を検討します。

### スルメイカ漁況の今後の見通し（予報期間 8～12 月）

#### 日本海西部

- 漁期・漁場：10 月以降の産卵南下群が漁獲対象となる
- 来遊量：昨年および近年平均を上回る
- 魚体の大きさ：前半は近年平均より小さい

#### 日本海沖合域

- 漁期・漁場：大和堆付近の海域を主体に 7～9 月を中心に漁場が形成される
- 来遊量：昨年および近年平均を上回る。
- 魚体の大きさ：前半は近年平均より小さい

※近年：過去 5 年間（2003～2007 年）

### 漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況

平成 20 年 6 月下旬～7 月上旬に日本海区水産研究所および各県の水産研究機関により日本海全域においてスルメイカの漁場一斉調査が実施されました。図 1 に釣獲試験によるスルメイカの分布量を CPUE（釣機 1 台 1 時間あたりの漁獲量）で示しました。

#### 【分布状況と大きさ】

日本海の沿岸域では北部では外套背長が 19cm 未満の個体の比率が高く、西部では 19 cm 以上 21 cm 未満の個体の比率が高く、全体的に近年平均よりも小型でした。特に隠岐諸島周辺では 17 cm 未満の個体の比率が高くなっていました。また、CPUE をみると、日本海北部では比較的分布密度

は高く、西部では高くありませんでした。

日本海の沖合域では、ほとんどの調査点で外套背長が 19～21cm 未満の個体の比率が高く、23 cm以上の大型個体はほとんど見られませんでした。また、CPUE が 50 個体以上の調査点が大和堆付近で複数みられ、分布密度は高い傾向にありました。

### 【分布量から推定された資源水準】

今年のスルメイカの分布密度を示す CPUE（釣り機 1 台 1 時間あたりの採集個体数）の全調査点の平均は 21.1 個体でした（図 2）。この値は昨年の値(11.2 個体)の 1.9 倍、過去 5 年間の平均値(14.4 個体)の 1.5 倍でした。このことから、今年の日本海におけるスルメイカの資源量は、昨年および近年 5 年平均を上回り、資源水準の高かった 2000 年前後と同様に高水準であると推定されました。

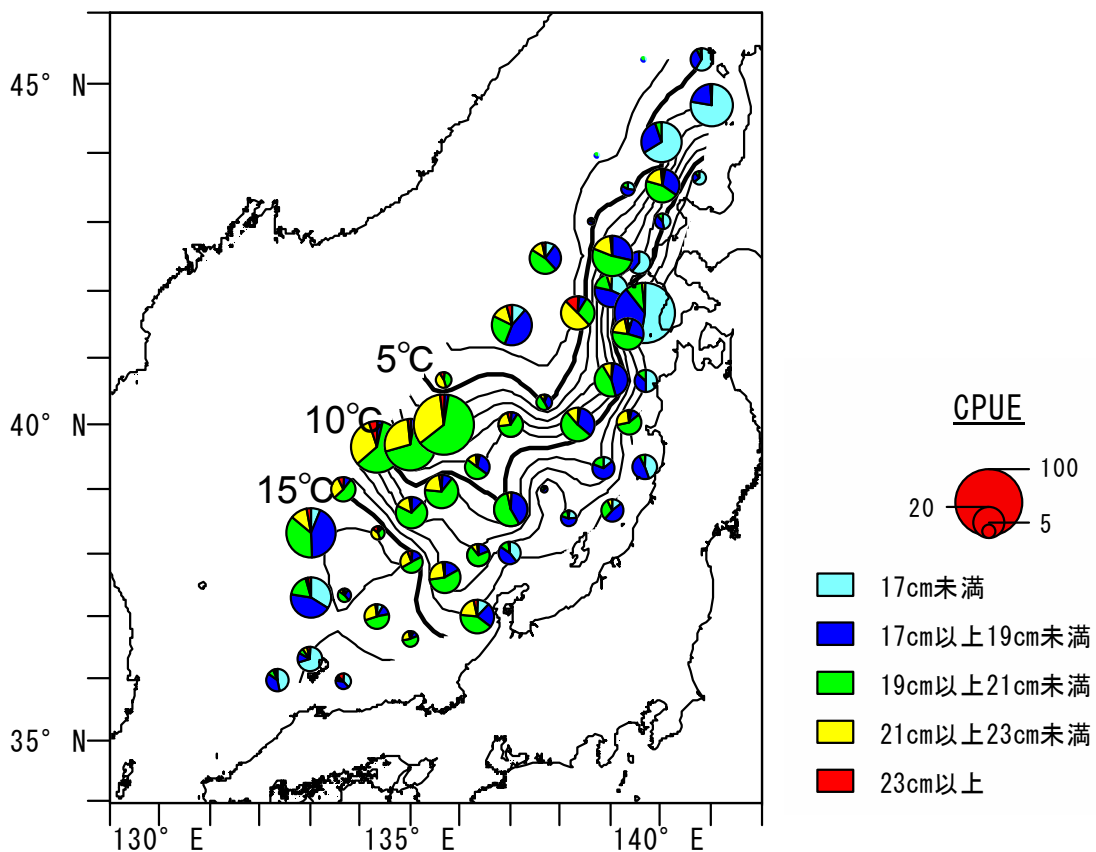


図 1 漁場一斉調査によるスルメイカの分布状況(資料:日本海区水産研究所)  
●の面積は各調査点における CPUE を示し、色は外套背長の範囲の比率を示す

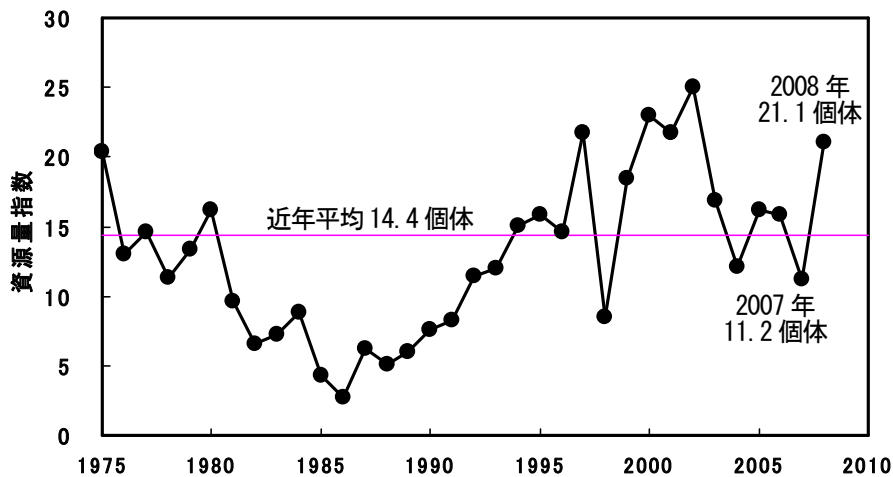


図2 漁場一斉調査における平均CPUE（釣機1台1時間あたりの漁獲量）の経年変化(細線は近年平均を示す) 資料:日本海区水産研究所

### 今後の島根県沖での漁況

#### スルメイカは好漁が期待できる

浜田港に水揚げされた小型イカ釣（5トン以上30トン未満）、中型イカ釣（30トン以上）によるスルメイカの月別の漁獲動向を図3に示しました。

今年は、冬生まれ群の南下時期が遅く、秋生まれ群の北上時期が遅かったため、2月と4・5月に極端な

漁獲のピークが現れる漁況となりました。7月までのスルメイカの総漁獲量は883トンとなり、前年同期（863トン）をやや上回り、近年同期（914トン）を下回って推移しています。

例年、8月以降の漁獲量は少ないですが、前述のとおり日本海全域におけるスルメイカの資源量は、近年よりも多いと判断されていることから、10月以降島根県沖への来遊時期になれば、好漁が期待できるでしょう。

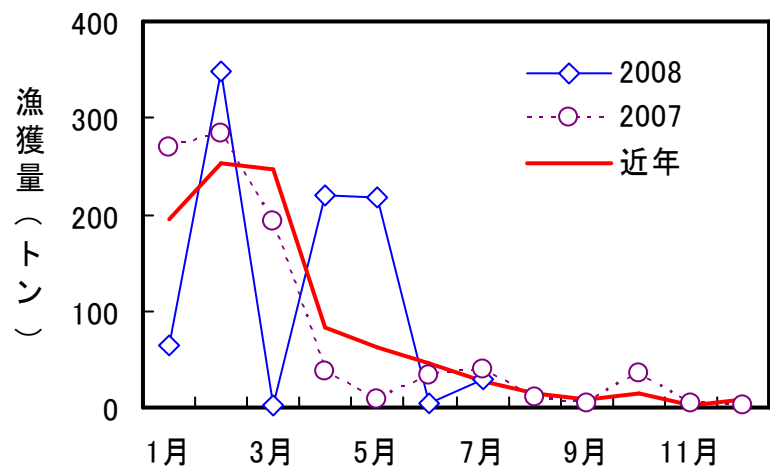


図3 イカ釣り漁業（5 t 以上）により浜田漁港に水揚げされたスルメイカ漁獲量の推移